

## 2. 模型を活用した普天間飛行場跡地における原風景イメージの作成

### (1) 原風景模型の作成について

#### 1) 原風景模型作成の背景・目的

普天間飛行場跡地においては、かつて水系・緑地・地形などの自然環境とのかかわりながら、集落での生活や、田畑での耕作、御嶽等での祭祀行事など、先人たちの暮らしがあった。しかしながら、基地として接収・改変されたことで、その生活・生業や自然環境は失われた。

跡地利用を検討するにあたり、その先人たちの暮らしを理解し、土地利用に関する知恵や、空間構成などを継承していくという視点も重要であると考えられる。

したがって、基地整備による改変前の地形、土地利用、集落構成、生活・生業を視覚的に確認し、跡地利用における土地利用のあり方、公園・緑の配置やあり方、歴史・文化資源の保全・活用のあり方、さらには景観形成に関する考え方の検討材料とすることを目的として原風景模型を制作する。

また、模型を地域住民との話し合いに活用することより、旧集落の遺跡等をどの様に利用していたのか、新たな発見や住民相互の確認を通して、跡地利用の検討に住民意見を活かしていく。

#### 2) 原風景模型作成方針

##### ① 模型作成に向けた基本的考え方

- 馬場、闘牛場、井泉など、人が集まる共有空間や御嶽、殿などの祭祀空間を表現する。
- 範囲については、東西方向に縦長にして集落を挟む両端の地形を含める。
- スタディ模型として象徴的な部分をデフォルメしたものとする。
- 地形の起伏は1：2（ヨコ：タテ）とし、水系や御嶽の森、集落周辺にある緑地等を表現する。

##### ② 模型での表現で留意すべき事項

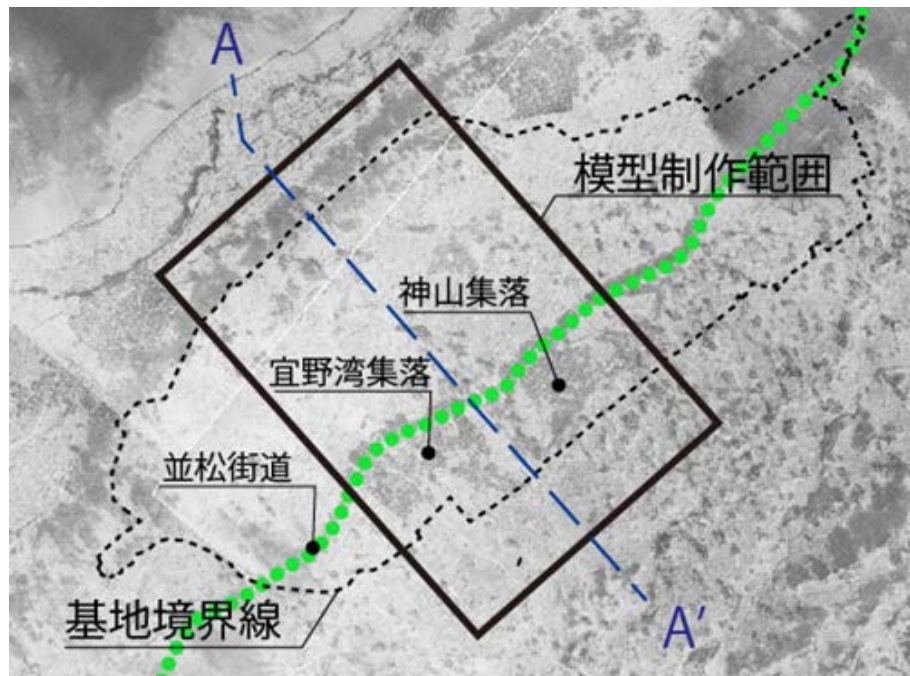
- 御嶽、殿を基本的に捉え、墓地、山林、田畑の違いを表現する。
- 道路の方向、集落の向きを表現する、（風の通り方が理解できるような表現）。
- 御嶽の緑地、農地内緑地、西側斜面緑地を表現するが、特に、御嶽を包含する緑地については目立つように表現する。
- 神道、メヌミチ等集落の象徴的な道を表現する。
- 屋敷の表現については、ノロ殿内、殿（トゥン）など、祭祀にかかわる建築物とその敷地、番所や学校、マチグワー、サーターヤーなどの生活とかかわりの深い公共施設を強調する。
- 馬場、闘牛場など村の行事に係る空間は強調する。
- 並松街道については、シンボル空間として可能な限り丁寧に表現する。
- 井泉については、ウブガーや若水汲みに利用される湧水を強調する。
- 河川。水路等水系は一目で視認できるように表現を工夫する。

- クムイについては、共同クムイを強調する。
- 西側のグスク時代、先史時代の遺跡についても、赤枠等で表現する。
- 省略すべきものは削る（詳細に表現しない）。

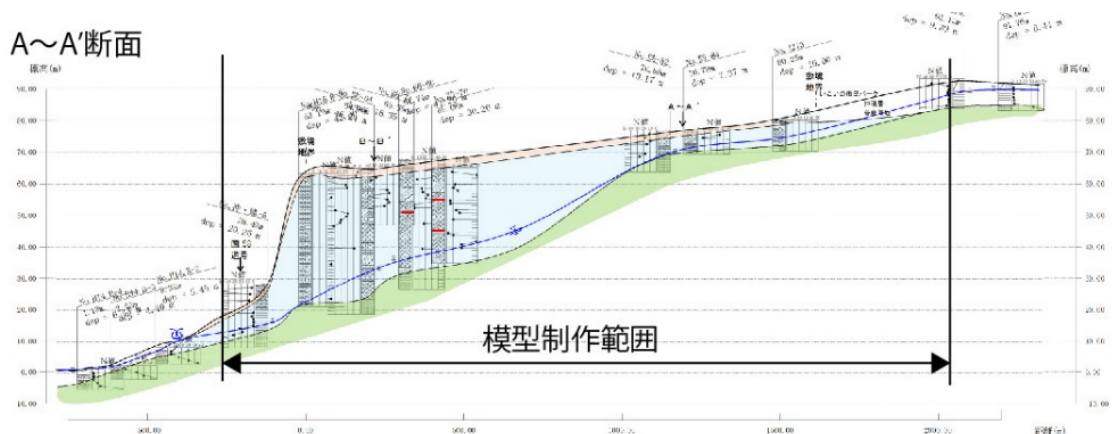
### 3) 原風景模型作成

#### ①原風景模型制作範囲

模型の範囲は、宜野湾古集落及び神山古集落を中心とした、並松街道、抱護林、水系、御嶽や湧水（カー）、墓、馬場、農地、池など、先人たちの暮らしと深くかかわる要素を表現可能な範囲で、微地形も目視できるスケールとする。また、長辺を東西方向とし、両側の丘陵地を表現する。したがって、スケールは1/750、長辺2,700mm×短辺2,000mmとする。

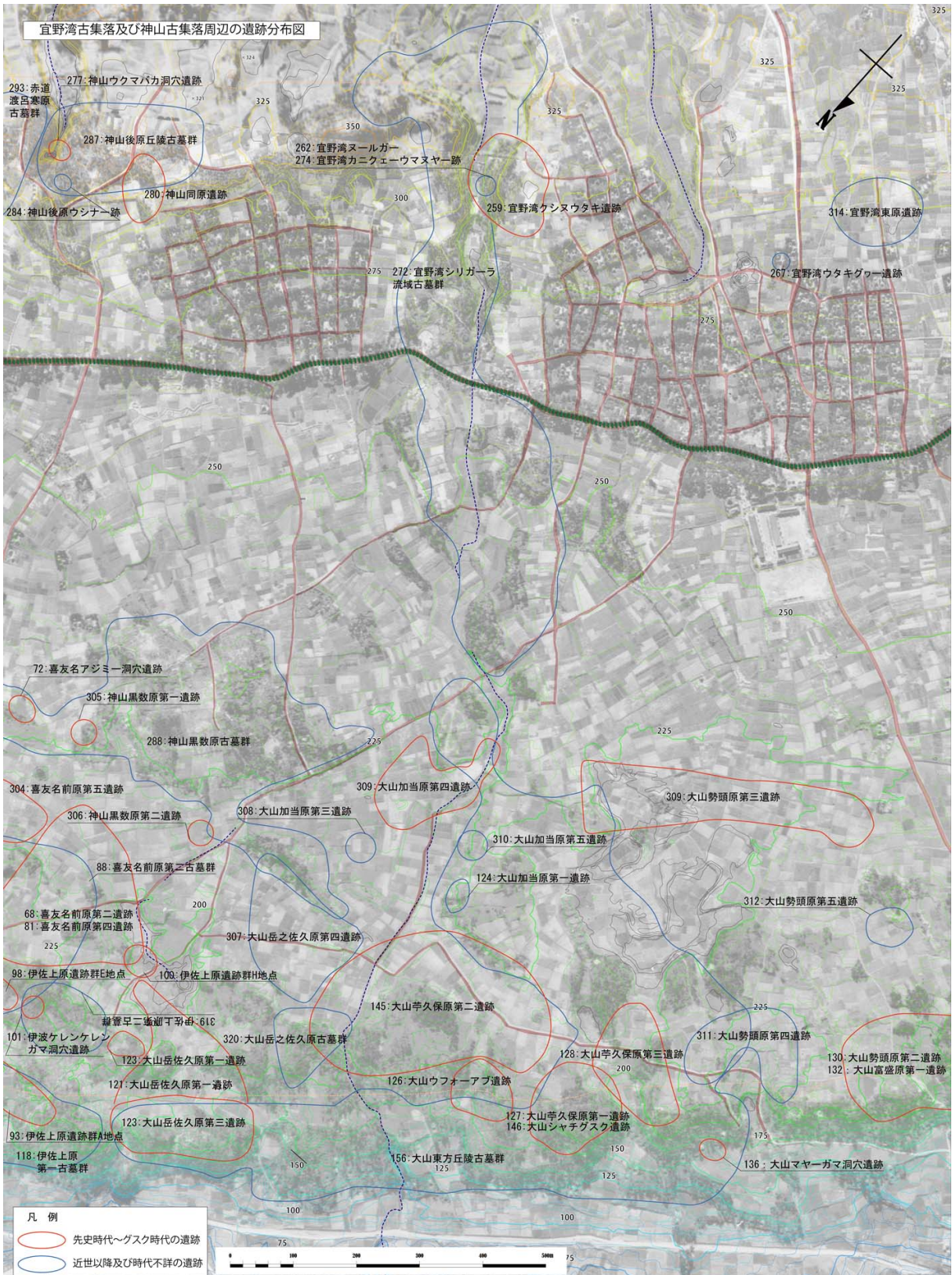


図IV-3 模型作成の範囲



図IV-4 模型作成範囲中央部の想定断面図





図IV-5 模型作成の基図として作成した遺跡分布図

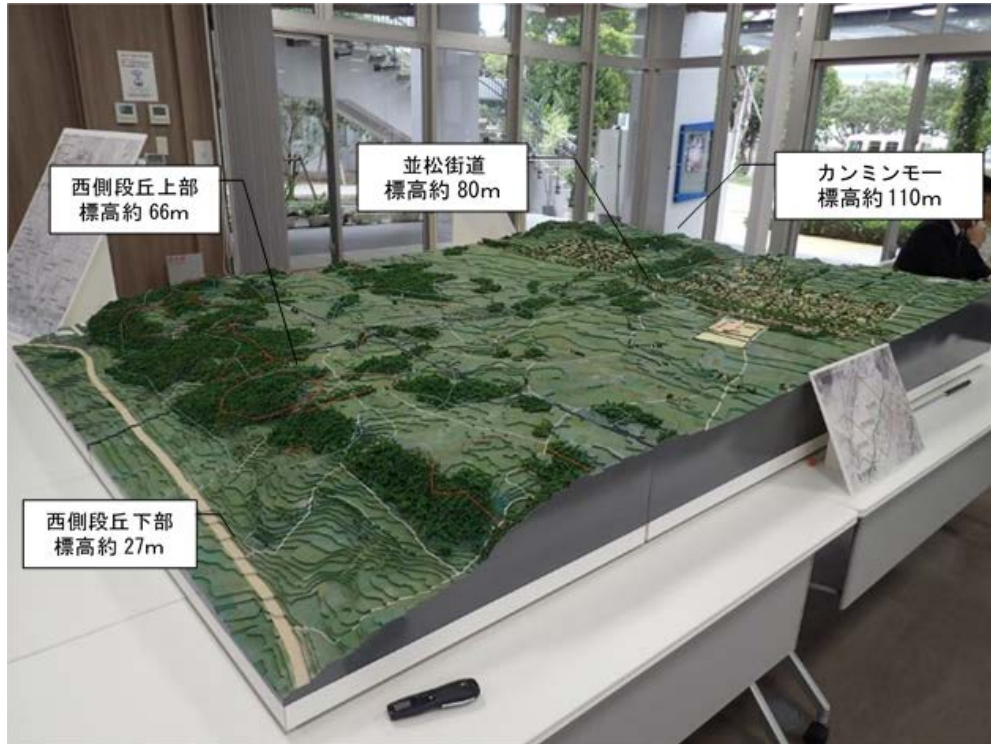




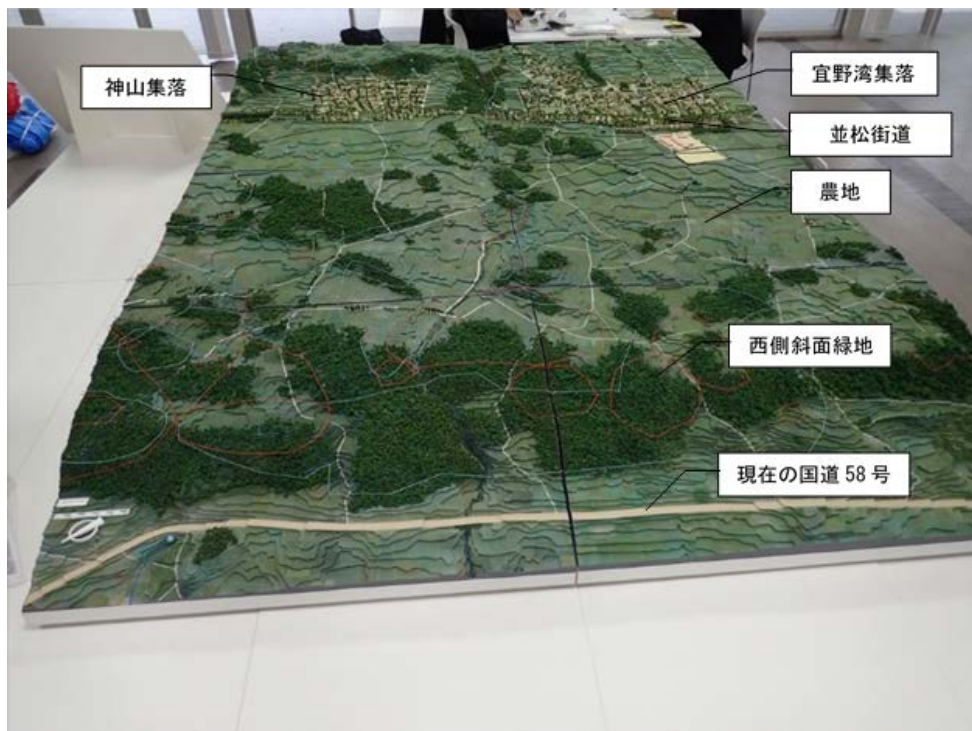


#### 4) 原風景模型

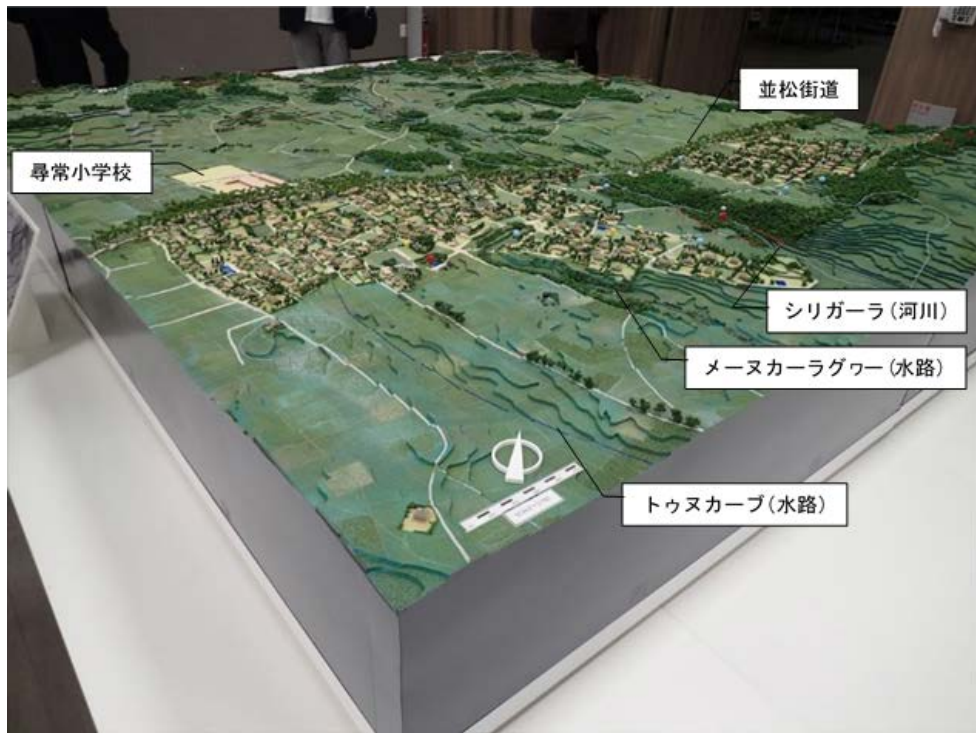
完成後の原風景模型の写真を以下に示す。



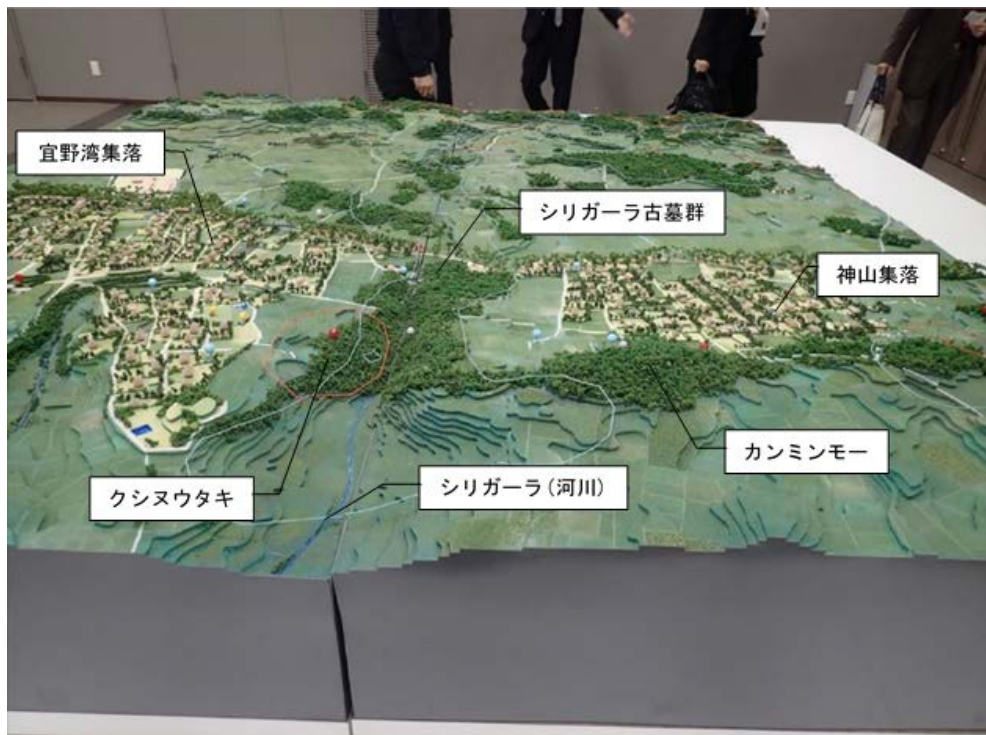
写真IV-1 模型全体①(西側より撮影)



写真IV-2 模型全体②(北西側より撮影)



写真IV-3 模型全体③(南側より撮影)



写真IV-4 模型全体④(南東側より撮影)

### 3. 跡地利用に関する機運の醸成を図る催しの提案

#### (1) 県民フォーラムの開催提案

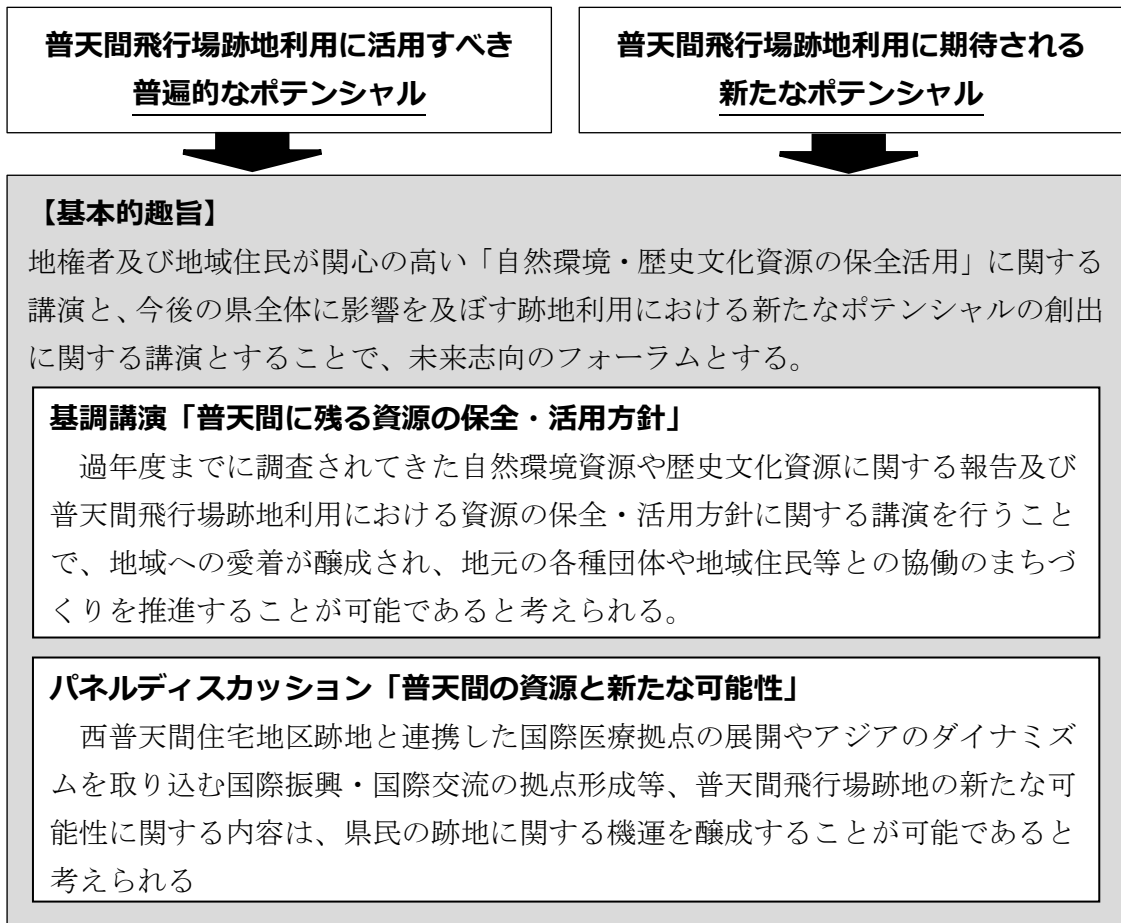
##### 1) 開催目的

普天間飛行場跡地利用に関するこれまでの取組みを広く県民に知ってもらい、跡地利用に関する気運を醸成するとともに、県民の跡地利用に関する提案・意見を聴取する場を多数設ける。

特に、過年度作成したPVやVRなどは、跡地利用をイメージしやすく、多くの県民に見てもらい機会を設けることで、今後の取り組みへの関心が高まることが期待できる。また、水系アクリル模型や本年度制作する原風景模型等展示・解説し、跡地の自然環境や歴史・文化への関心も高まり、より具体的な意見の聴取が期待できる。

##### 2) 講演内容の検討

普天間飛行場跡地利用の配置方針及び配置方針図の更新に向け、地権者や周辺の地域住民等にとって、より関心の高いテーマであり、「中間取りまとめ」以降、議論を深化させてきた「自然環境・歴史文化資源等の保全活用（普遍的なポテンシャル）」に関する内容及び沖縄の新たな振興拠点・国際交流拠点として、県民が期待しているテーマであり、今後、議論を深化させていくべき「普天間飛行場跡地利用に期待される新たなポテンシャル」に関する内容とする。





### 3) これまでに作成したコンテンツの展示・放映コーナーの設置

過年度までの成果であるPVやVR、模型等のコンテンツを展示、放映することで、今後の取組みへの関心が高まることが期待できる。また、各コンテンツ内容に関するアンケート調査を実施することで、幅広い参加者から多角的な意見を得ることが期待できる。

展示・放映するコンテンツ	意見聴取内容
1. 原風景模型の展示・解説	戦前の集落における人々の暮らしから、大切にされていた場所を認識してもらい、まちづくりの参考となる <u>空間構成要素</u> についての意見を得る。
2. 水系アクリル模型及び自然環境に関するパネル展示	跡地における自然環境資源について理解を促し、 <u>今後の土地利用</u> や <u>環境共生のまちづくり</u> についての意見・提案を得る。
3. VRを操作できるようなブース	跡地利用計画(案)の内容及び未来の街のイメージを視覚的に認識してもらい、跡地の <u>将来像</u> についての意見を得る。
4. 平成25~27年までに作成したPVの放映	



パネル展示(H26 実施)



水系模型(H27 作成)



プロモーションビデオ(H25~27 作成)



原風景模型(H28 作成)



## 4 今後の情報発信策の具体化

### (1) 県内外・国外へ情報発信するホームページコンテンツの更新

#### 1) 「PV VR編 Vol.3 北側エリア」コンテンツの更新

##### 【TOPページ】



北側エリアの画像に差し替え

北側エリア文言追加

北側エリア公開情報追加  
リンク先:VRページ

北側エリアの画像に差し替え

##### 【VRページ】



北側エリア  
リンク先:Youtube公式動画

北側エリアを追加

中央エリアとして整理

#### 2) Google アナリティクストラッキングコードの埋め込み

HPのアクセス数の分析の実施するため、全ページにGoogle アナリティクスのトラッキングコードの埋め込みを行う。

#### 3) アクセス解析結果

Google アナリティクスを使いHPのアクセス解析を行った。月平均約 300 名のユーザーが来訪し、約 1,000 ページビューがある。1 ユーザー当たり約 3 ページを閲覧している。アクセス数が多いのは、TOPページで次にVRページである。

## (2) SNS 活用の可能性の検討

新たな情報入手手段として、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が普及している。全国の自治体でも、SNSを情報発信に活用する動きが活発化し、SNSを活用した情報発信に効果を上げる自治体も出ている。SNSを活用した情報発信に本格的に取り組むべきあると考え、SNS活用の可能性について検討をする。

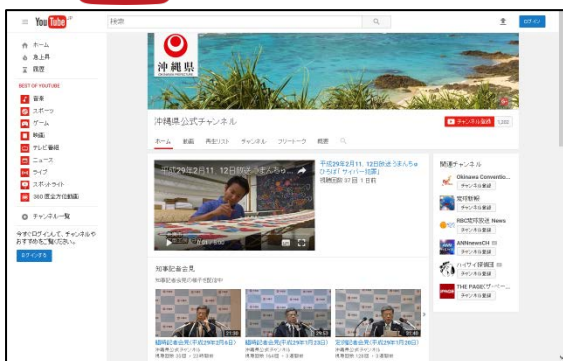
### 1) SNS活用の目的

普天間未来予想図サイト認知拡大と動画(youtube)閲覧数、チャンネル登録数増加を、目的とする。サイトからの動画への誘導だけではなく、youtubeからのサイトへの誘導も強化する必要がある。



効果的に誘導

### YouTube 沖縄県公式チャンネル



### 代表的なSNS

